



「モグ太」です。

新年度が始まりましたね。今回は、令和8年度の調査研究計画と、新たに就任した所長を紹介します。

幌延深地層研究センターでは、毎年度、当該年度の計画について、幌延町および北海道に計画書を提出し、説明を行うとともに、地域の皆さまへの説明会を開催しています。

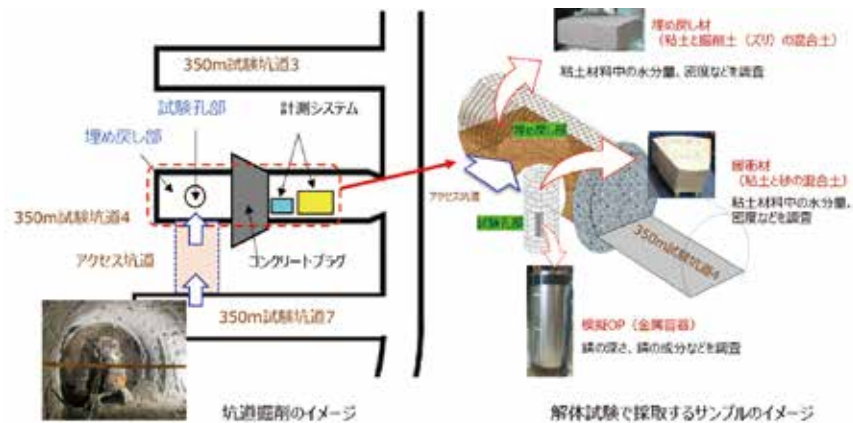
今回は、令和8年度の調査研究計画のうち、地下での主要な作業である人工バリア性能確認試験の解体試験と、地下500mでの研究について、簡単に紹介します。

### 【人工バリア性能確認試験の解体試験】

人工バリア性能確認試験は平成27年から地下350mに人工バリアを埋設し、モニタリングを行ってきた試験です。

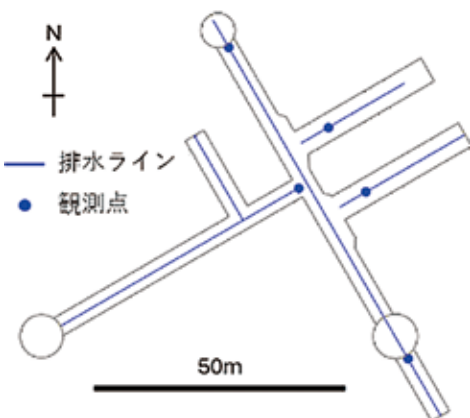
今年度は、10年以上モニタリングを行ってきた人工バリアを取り出して、埋め戻し材や緩衝材などの試料を採取・分析する解体試験を行います。採取した試料は、地上の室内で、水分量や密度などの分析を行います。

分析の主な目的は、これまでセンサーで取得してきたモニタリングデータの妥当性確認と、分析した結果を踏まえた解析を行い、シミュレーションモデルの高度化や適用性の確認などを行うことです。



【解体試験イメージ図】

### 【地下500mでの研究】



【500m 調査坑道排水システムの流路図】

地下500mで研究を行うために令和5年度から坑道の整備を再開し、令和8年1月15日に500m調査坑道の整備を完了しました。

地下500mの地質環境は、「稚内層」と呼ばれる地層の深部で、「稚内層」の浅部である地下350mと比べて土圧や地下水圧が高く、地下水の動きが極めてゆっくりであるなどの特徴があります。今年度は、昨年度に整備した排水システムを活用し、地下500mにおける各坑道からの地下水の湧水量を詳しく把握するとともに、湧水量がどのように減少していくかを予測する手法の確立に向けた解析などを進めます。